村松麻由
原作 舞阪洸
キャラクター原案 ようた
落ちてきた龍王(ナーガ)と滅びゆく魔女の国
4
MFコミックス

第16話
戦いの終わりと…
俺の名は
織田三郎信長！
貴様を屠る
男の名を地獄まで
持っていくがいい!!

落ちてきた龍王(ナーガ)と
滅びゆく魔女の国
4

contents

第16話
戦いの終わりと……—001

第17話
同盟締結—029

第18話
予期せぬ虜囚—065

第19話
ライバッハ—097

最終話
未来への思い—125

Mayu Muramatsu
村松麻由
Kou Maisaka
原作 舞阪 洸
キャラクター原案 よう太

ねえ――っ
今のナーガさんの
声さ――
もしかして
あれが
本名…!?
う…うん
それっぽいけど…
でも…

聖龍王(イゾルナーガ)だ
なんて…!
さらっと
言わないで
欲しいわよ…!

クゥ あいつと
決着をつける
少しの間
下りて
くれないか
わかった
手出しは
しなくて
いいからな!

ヒュン
ヒュン
！
ちっ……！
もらった！

スパッ
ゴロ

す…
凄っ！
チャ
キ
長居は無用だ
戻るぞ
ヒュ
あ…
あぁぁ…
えっと…

クゥ！
カッ
あっ
ありゃ
なんだか
変な体勢
だな！
なに ふたりで
いちゃついてん
のよ――!!

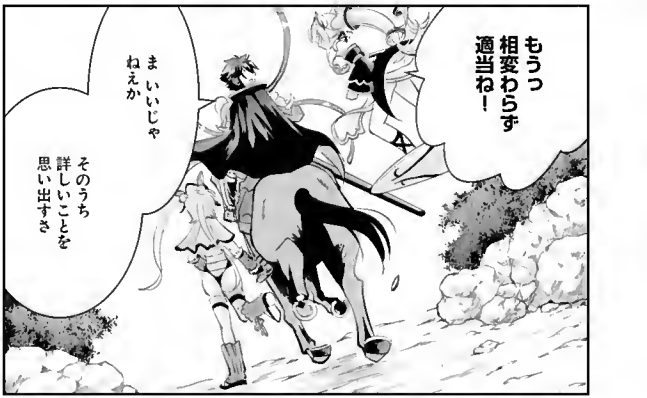
わ…
わざとじゃ
ねえって!!
こ…
これで平気
よし
行くぞ
ねえ
ちょっと
なんだよ
さっきのは
わざとじゃ
ねえって
言ったろ!!
ダダッ
ダダッ
ダダッ

そうじゃなくて
さっきの〝名乗り〟あれがあんたの名前なの!?
ピロ
名乗り…!?
俺はなにか名乗ったっけか!?
なっ…
なに言ってんのよ!!
しっかり名乗ったじゃないオダサブロー・ノーブルナーガって!!

本当に!?
ああ
あたしも
聞いたよ
でっかい声で
名乗ってた!

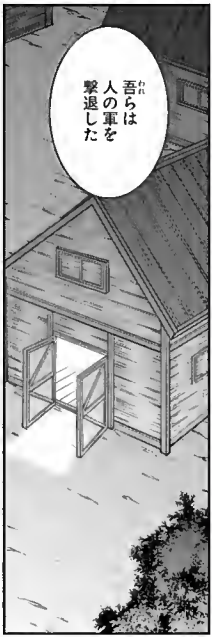
おださぶろう
のーぶるなーが…
それが
俺の名前
なのか!?
あたしに
訊くなって
ば!
うーん
聞き覚えが
ある気は
するんだがなぁ…

まぁ…
俺の口を衝いて出たんなら
嘘でも冗談でもなく
きっとそれが俺の名前なんだろうよ


もうっ相変わらず適当ね！
まいいじゃねえか
そのうち詳しいことを思い出すさ

ハインドラー族は
誰ひとり
欠けることなく
黒い森に
再集結を
果たした――

皆の
死力を尽くした
働きと――――


吾らは
人の軍を
撃退した

見事な
策を講じた
吾らが龍王を
労い…

今宵は祝いの宴に興じよう！
乾杯!!
今日はとっておきの葡萄酒を用意したわよ
じゃんじゃん飲みましょう！

へー これが
葡萄酒かぁ
飲むの
ちょっと
待った!
はっきりさせて
おきたいん
だけど
今回の戦は
本当に
終わったの!?
こうしてる間に
残った部隊が
攻めてくるなんて
ことはない?
安心しろ
大丈夫だよ
なんでそう
言い切れるの?
あれだけの完敗を
喫してしまうと
怖くなるんだよ

今回の敗北で
人間はおまえたちの
魔法を強大なものと
認識したから
下手に動くと
全軍が壊滅しかね
ないと考える
そんなことに
なれば
王都の守りが
いなくなる

だから
よほどの
覚悟がない
限り
連中は
これ以上踏み込んで
こられない

そ…
そんなもの
かしらね!?

ああ
そんなものさ
これで
カサンドラ
王国軍は
しばらく
森への侵攻は
諦めざるを
得ないだろう

だから存分に
祝っていいぞ
おまえたちの
勝利をな
そ…
そうね
私たちの
勝利と言うより
私たちと
あんたの勝利よね…！
そうか
そうか
ユウキ様も
俺の戦働きを
認めてくださったか!!
な な なに言ってんの
馬っ鹿じゃないの!!
誰があんたの働きなんか…
…そりゃあ
ちょっとは
働いたかもだけど
ってゆうか
そもそも今回の
作戦を考えたのは
あんただけど…

あらあら
抜けがけは
よくないわよ
ユウキ☆
キャッ
アイス!?
こ…
これから
……
は――い
ナーガさん
飲んでます
――!?
葡萄酒は
た――っぷり
ありますから
じゃんじゃん
飲んでくださいね――!
ひょーい
樽ごと
飲んでる…
んぐっ
んぐっ
んぐっ

あいつ…
あの怪力で もし
暴れ出しでもしたら
大変だぞ…!?
わ…
わかってる

ア…アイス
飲みすぎには
気をつけて…

誰が飲みすぎて
いるんですか？
いけませんねぇ
ちょっと注意して
あげなくては

ほ…
本当に怖いわ
この
怪力魔女!!!

きゃはは
はははは

次は
なにごと
——!!

ケイ
脱ぎまぁ――す
クゥも
脱ぐ
リンネも
脱ぎまーすぅ
リンナも
脱ぎまぁす

うわ…！
ガバッ
なに
見てんのよ!!

や…やっぱり
まずい…か…!?
当たりまえ
でしょ!!

仕方ない
ここは騒ぎが
収まるまで……
!?
しっ!

ナーガさん
……
いま…裸
見てましたね
アイス
痛い痛い痛い!!

いいですか
ナーガさん
正座して
こちらを
向いてっ!!
はいっ!!

あなたは
すけべぇが
過ぎます
人の男子が
そういうもの
だとしても
見るにしろ
触るにしろ
もう少し
上品にしないと
駄目ですよ

ユ…ユウキ
助け…
あいつ
〜〜〜
!!!
上品にと
言えば
食事のときも
そうです

もう少し
ゆっくり丁寧に
よく噛んで食べる
ように…
はいっ
全裸～～～!!
俺は
子供かー…
ガブッ

アイス痛いっ
頭が割れるっ!!
言ってる
そばから
あなたと
いう人は～～～!!
いたたたっ
……!
や…やめて
くれぇ…

むにゅ

すっ すまんっ
決して
悪気は…

あなたという人は
どうやらこの手を引きちぎらないとわからないようですね…！
いたっ…
いたたた…
だっ誰か――!!
この酔っぱらいをなんとかしてくれえ――!!

～第16話おわり～

母様
戻りました
エリューか
――で
どうじゃった!?
それが…
大変なことに
なってございます
なにっ!!

まさか…
ハリガンの奴
討ち死にでも
しおったか!!
とんでも
ありません
討ち死に
どころか…

戦は
ハリガンがたの
大勝利で
ございます

なっ
なぁにい…
貴様っ
……
おわっっ

詳しい話を聞かせよ
エリュー

かくかく
しかじか…
…ということで
ございます
母様
し…
信じられん
……

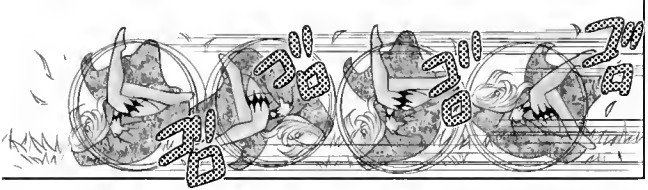
……
……

なにか言わんかっ
ボカッ
母様
いきなりなにをなされますか
おまえも一緒に黙っておったら会話を再開させるきっかけが掴めんじゃろが!!
そんな無体な…
今度やったらマンテラ剥いで全裸で木に吊るす!
…にしてもじゃ…
ハリガンらしくない戦い方じゃの…

エリューよ
ハリガンたちに
なにか普段と
変わったところは
なかったかえ!?
あるいは
カサンドラ軍でも
いいのじゃが

はい
ございました
ハリガン一党の中に
見たことのない
人間の男が
交じっておりました

なっ
なに!?
ボル
この阿呆(あほう)め
が――っ
あの


ゴゴゴ

やれやれ…
隣に座るぞ
アイスにはまいったぜ…
ああ
おぬしの力で吾らは大勝利を得ることができた
で…
このあとだがどうすればいいと思う!?
俺もそれを考えていたんだが

仲間がいるな
平地に下りるにはハリガン
おまえの一族じゃ足りない

へ…平地とな……!?
人の近くにわざわざ危険を冒して下りるだと!?

おまえたちの一族を守り
魔女として安寧に暮らしていける土地を確保するためには
平地に本拠地を移したほうが確実だろ!?

いいか!?
俺たちの目的は単に戦いに勝つことじゃない
魔女が堂々と生きていける世界を創るというのが最終的な勝利なら
いつまでも黒い森に留まっていては駄目だ

本拠地を移動させ
味方を増やし領民を増やし
支配地を広げる——
それが国を…安心して暮らせる世界を創るんだ

なぁ
どこかに仲間になれそうなのはいないか!?

こ…
この男…
我々とはまったく違う先の風景を見ている

いることはいる…
この黒い森に吾らとは別の魔女一族がな
すぐに引き合わせてくれないか!?
いいじゃねえか!
俺たちの次の戦いに加わってもらえるよう話したいんだ!

…だがのう…

スレイマーヤ一族の長(おさ)ヴィータは吾よりも年上で偏屈で嫌みで尊大で協調性がなく
独善的でわがままな嫌われ者だ
う…なんだか
厄介そうなばあさんだな

ただ…
変わり者ゆえ
変わったおぬしに
興味を持つかも
しれぬ
なんだよ
それ!?

それに…
ユウキから
聞いたのだが
おぬし敵の武将を
討ち取るときに
「ノーブルナーガ」と
名乗ったそうだな

まあ…
俺自身は
よく覚えて
ないんだが…
ノーブルナーガと
いう言葉にはな

「聖なる龍王」
とか
「高貴なる龍王」
という意味が
あるのだよ

ものは試しだ
会ってみるが
いい
聖龍王の
言葉なら
ヴィータも
耳を貸すやも
しれぬ……!

ナーガ
着いたぞ
あの先に
スレイマーヤ
一族の砦が
ある

言っておくが
ヴィータに
対して
ばあさんとか
年増とかは
厳禁だぞ
機嫌を損ねたく
なかったらな

あ…
ああ……

エリュシオーネ！

母様に
おまえたちが
来たら
連れてこいと
言われた
ひねくれ者の
ヴィータさんが
やけに好意的で
気持ち悪いわ

こちらが
カサンドラ軍に
勝ったことによって
意識を変えたかも
しれぬ

母様
ハリガンたちを連れてまいりました
吾はヴィータ・スールシャール・スレイマーヤ
スレイマーヤ一族の長よ
あれがハリガンより年上だと……!?

ヴィータよ
今日はこの者をおぬしと会わせたくて参った
俺の名はナーガだ
今のところ…だが
母様あの者が…
見ればわかるわ
龍王（ナーガ）じゃと!?
ずいぶんと偉そうな名前じゃな
それに今のところとはどういう意味じゃ
俺は異界からこちらの世界に落ちてきた衝撃で記憶をなくして
自分の名前も一部しか覚えてないんだ
異界とはこっけいな

…で
龍王様よ
吾に
なに用じゃ!?
ヴィータと
言ったな
スレイマーヤ
一族の長よ
魔女と人とが
一緒に暮らしていける
新しい世界を
俺たちと共に
創らないか!?

な…
なにを申すか！
そんな世界ができれば素晴らしいが
実現なんぞ不可能に決まっておる!!
戦に勝てばできるというのか!?
だとしたらぬしは阿呆じゃ！

ただ戦に勝つだけじゃないさ
戦に勝って領民を増やして魔女が統治する国を創るんだ
ふん
山岳地帯のこの森では
捕虜を領民として住まわせる土地はないぞ

そうじゃねえって
ここではなく
下の平地に
侵出して
カサンドラ王国
支配地域
ハインドラー族
支配地域
カサンドラ王国の
領地を占領
するんだよ
なっ
なんじゃ
とう!!
なんで
そんなに
驚くんだよ
魔女がいい政を
行えば人間に
信頼される

人と魔女とが
平穏に暮らせる
国があると
人間界に
どんどん
伝わっていけば
なにもしなくても
国は広がって
いくだろう
KASANDORA
HAINDORA

こ…此奴
理想主義者に
して
恐るべき
現実
主義者じゃ
……!

こんなことを
考える者は
少なくとも
今の人間界には
おらん

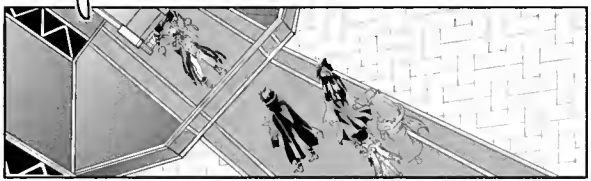
異界から
来たというのは
本当なのか…!?

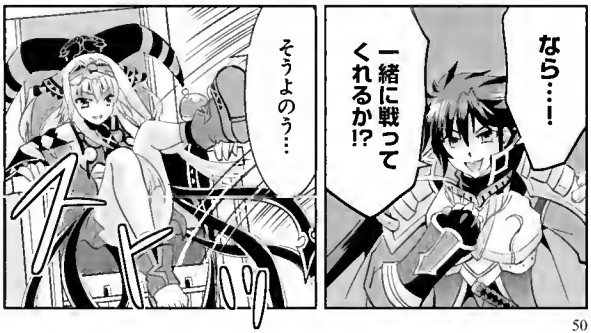
ぬう
ハリガンめ
とんでもない
人間を手駒に
しおったな

母様…？
くくくく
……

ははははは
はは…

おもしろい…！
じつに面白い男じゃ…！
はは
はは
はは




なら…！
一緒に戦ってくれるか!?
そうよのう…
スト

気難しい
ばあさんだって
聞いてたから
どうなることかと
思ったが
安心したぜ
見た目も
可愛くて
話も早い
!!
……
ばあさん
…!?
ナーガ！
言ったろうが
ヴィータの前で
歳の話はよせと
悪い
つい気が
ゆるんで…
ダンッ

ええい！
乳お化けは
黙っておれ！
邪魔
じゃ!!
ちっ
乳お化けとは
なんじゃ
この胸なし
幼女が!!

あーあ
始まっちゃっ
た

姉様今日は
冷静だと
思って
いたの
に
ナーガさんの
せいですよ!!

ぬしが
歩くときに
ふらつくのは
乳が重すぎる
せいじゃろう!?
そういう
おぬしは
乳がない分
魔法でなくとも
宙へ浮かびそう
だな!!
ビキ
ビキ
ビキ
ハリガン
貴様 幼い頃
襁褓を替えて
やった吾に
向かって
ずいぶんと
大きな口を
叩けるように
なったものだのう…
ゴゴゴ

ぬおっ!!
ドゥ
う…
くっ…!

ベベベ

か…
体が動かねえ
……
なにが
起きたっ
…!?

か…母様
抑え…てくださ…い…

お…い…
ヴィータさん…よ…

ほうまだ話せるのか
大したものじゃな

そうか龍王殿は初めてだったな
これが吾の魔法
人呼んで「奏の軽重」よ!!

あ…んたのこの魔法…
そこにいる者すべてに等しく働く…んだな?
特定の誰かを狙い撃ち…はできないんだな?

ほほう
初見でそれを
見抜くか
かなり
苦しかろうに
なかなかの
観察眼じゃの
……！
体が
軽くなった
……!?
体重が元に
戻ったって
感じか
…というよりは
だがな…
龍王殿
よ！
こんなことも
できるの
じゃがな

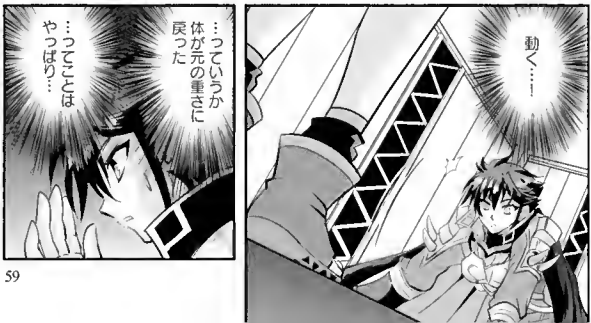
ぐはっっっ！

ナーガさんっ!!

どうじゃ？
特定の者を狙い撃ちしてみたぞえ

…いや待て…
あんたどうして俺の頭に…手を乗せて…いる…？
それってつまり…
特定の誰かを狙い撃つときは
相手に触れないとならないってことじゃないのか!?

うはははははは


動く……
…っていうか体が元の重さに戻った
…ってことはやっぱり…

気に入ったぞ
龍王殿よ
いつまでも
寝とらんで
起きるがよいわえ
ん？
ハリガンは
乳が重くて
いつまでも
立てぬようじゃ
ならば吾が
貴様のその
無駄に大きな
乳を
撫でて軽くして
やろうか？
大きな
お世話だ！
ハリガンよ
それが吾に
頼み事を
しにきた者の
態度かのう？

そ…
それは…
ハリガン！
そこで頭を下げる必要はねえぞ
…それは
吾の助力は必要ないということかの龍王殿

勘違いしないでくれ
あんたの助力は必要だ
だがそれは互いに対等な立場でということだ

どちらかが一方的にお願いするということじゃない
あ…あいつ…
母様に殺されるぞ…

あ――っ
はっはっは
ははは
ははは

吾の魔法の
本質を見抜き
理想を語りつつ
冷静に現実を
把握する
ぬしのその
思考がなにより
面白いわえ

気に入った
ほんに
気に入ったぞ
龍王殿よ

掌を出せ
龍王殿
？

互いに
掌を重ね
合わせるのが
約定の印と
なるのよ
なるほど
これで
いいか…!?
これで我らは
正式に共に
戦う仲間と
なったわけじゃ
いわば
同盟締結
じゃの
同盟を結んだ
となれば
これから
仲よく
しないとな
ハリガン
――!

俺とヴィータ
だけじゃ
駄目だろ
一族の長
同士も約定の
印を示さないと
いや
それは…
む…
しかし…

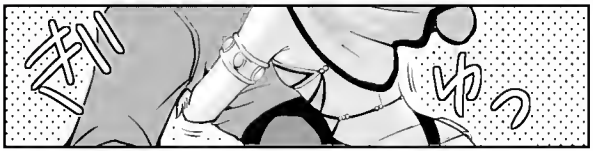
しようが
ねぇな
互いの掌を
重ねるのが
嫌なら

これで今後の
ふたりの諍いは
なしだ
共に戦う
仲間として
――!

～第17話おわり～

第18話 予期せぬ虜囚

そろそろ
シュバイツ川が
見えてきそう
だな…


ゆっ

ケイ
あまり
しがみつかれると
苦しいんだけどな

俺の後ろに
乗るのが
そんなに怖いか!?

あはははっ
そうじゃ
なくてさ…
なんか
懐かしいん
だよね
懐かしい
って…
馬に
乗るのが
か!?
違う違う!
そうじゃ
なくて……
ぶん
ぶん
ぶん
その…

男の人の背中がさ――!!
ばっ!!
しっ
いてえっ!!

おまえの手で思い切り叩かれたらこん棒で殴られたも同じだぞ
魔法は使ってないから大丈夫だよ
ま それはそれとしてだ…
男の背中が懐かしいって
もしや父親の話か!?

うん まあ
そんなところ
前から少し
気になって
いたんだが…
おまえたちの
父親ってのは
どこでなにを
しているんだ？
あたしたちに
父親は
いないんだ
え…!?
ええと
正確には
父親はいないも
同然って
ことになるの
かな!?
どういう
意味だ…!?

なんか
気軽に訊きにくくなりやがったな

だから魔女はみんな
父親のことはなにも知らないし覚えてないんだけど
あたしにはね父親の思い出があるんだ

魔女はね自分の父親のことをなにも知らないの
知らされてもいないの
だからいないも同然なの

それが背中……なのか

そう
覚えてるっていうか
ほんの微かな記憶なんだけどさ
あたし父親に背負われてたみたいなんだ
いつどこでとかはさっぱりだけど
目の前の大きくて温かい背中だけは覚えてる――
だからナーガさんの背中見てたら
ポ
つい懐かしくなってへへへっ？
俺はおまえみたいな
大きな娘を持つような年じゃねえぞ!!

せっかく人が
郷愁に
浸っているのに
そういうこと
言わないでよ
興ざめ
じゃんっ
だから
叩くなって
こら…

ナーガ
さんっ
おっ ノノエル
交代のケイを
連れてきたぞ
向こう岸の
様子はどうだ?

なんの動きもありませんです
よし じゃあ俺は戻るからな
あとはふたりで見張りを頼むぞ
とくにケイは軽挙妄動を慎めよ!!
…って…
なにをしてんだっ!?
あっ

ん!?
おまえっ…
なんで裸
にっ…

だってこれから
ノノエルと交代で
水に入って
見張るんだよ?
邪魔なもの
つけてたら
いざっていうとき
行動が遅くなるし

そ…
そうか
なら
いいわ…
……

う
ケ…
ケイ……
せめて下帯
くらいは…

いっち
にっ
さん
しっ

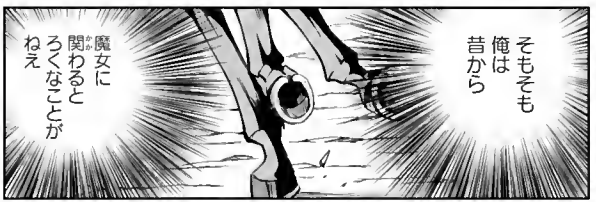
なんつう
格好を…
水に入る前は
準備運動
しないと
ね――――！

ナーガさん……
いいんでしょうか…
…わけねぇよなっ
い…
いい…

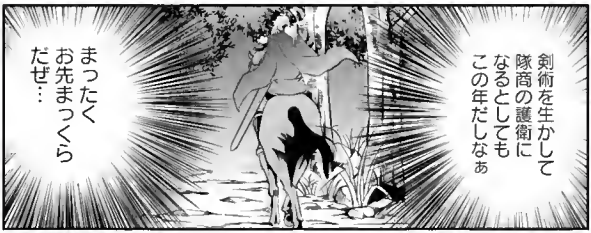
ケイ！おまえは水に入らなくていい
水中はノノエルに任せる
いいから服を着て岸から見張ってろ！
え――なんで――!?
なんでって…
俺だって別にいいと思ってんだけどなっ
ノノエル悪いがまた行ってもらえるか!?
全然平気です私は水中で呼吸できますし

ザシュッ
なにかあったらすぐに知らせろよ
はーい

くそっ
新参者の将軍
め…！
若造のくせに
俺の中隊を
こんな
危険な任地に
送りやがって…
魔女がこちら側に
渡ってくるのを
「断固阻止せよ」だと？
だったら
もっと兵員を
増やせってんだ


そもそも
俺は
昔から
魔女に
関わると
ろくなことが
ねえ

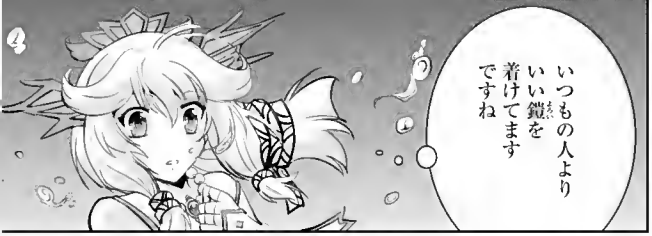
いっそのこと
軍をやめるか!?
もう俺には
養う家族も
いねえしな…
だが ほかの仕事に
就こうにも俺には
戦の経験以外
なにもねえ…


剣術を生かして
隊商の護衛に
なるとしても
この年だしなぁ
まったく
お先まっくら
だぜ…

このあたり……
だいたい いつも敵の哨戒部隊が来ている場所です…

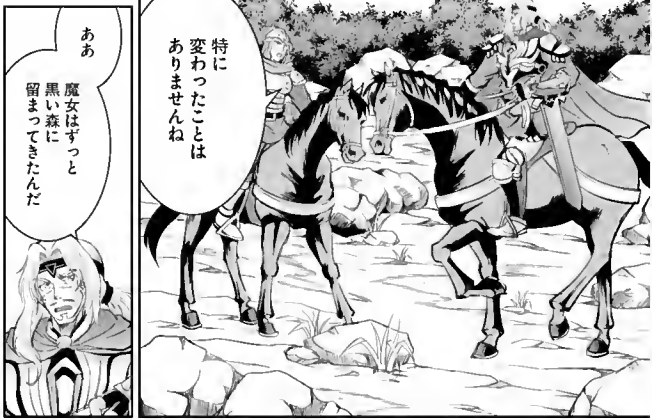
思ったとおり
いつもと同じ部隊が――――

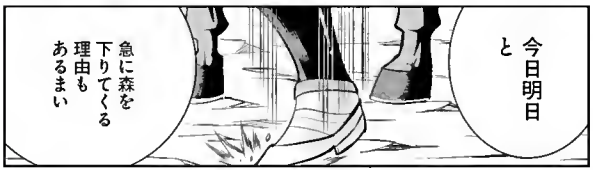
いえ
違うです!!

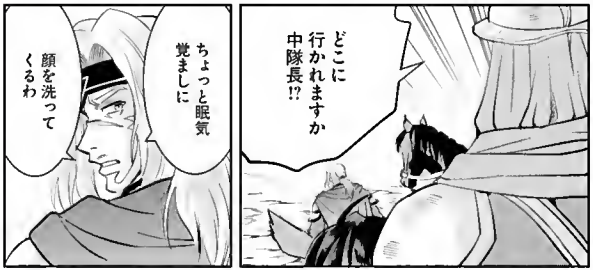

4
いつもの人より
いい鎧を
着けてます
ですね

あのときも
いい鎧を着けた人は
大隊長
だったです
…ということは
あの人も
部隊指揮官
です…か!?

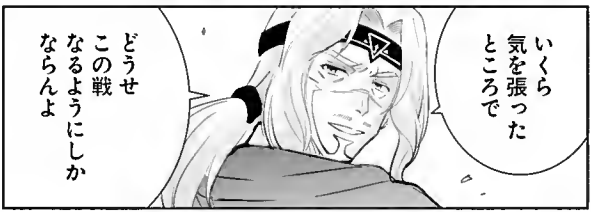
そんな人が
わざわざ哨戒してると
いうことは
なにか大きな動きがある
前触れでしょうが
ボゴッ
ここは
もっと近づいて
調べてみたほうが
よさそうです


特に
変わったことは
ありませんね
ああ
魔女はずっと
黒い森に
留まってきたんだ


今日明日
と
急に森を
下りてくる
理由も
あるまい


どこに
行かれますか
中隊長!?
ちょっと眠気
覚ましに
顔を洗って
くるわ

先に戻っていろ
し…しかし…


いくら気を張ったところで
どうせこの戦なるようにしかならんよ

やれやれ…
誰か…近づいてきます？

き…
気づかれた
ですかっ!?
で…
でも…

光の屈折を
操る魔法で
人間の目には
私の姿は
見えないはず
ですが…
ど…どう
しますですか
このまま
先制攻撃…!?

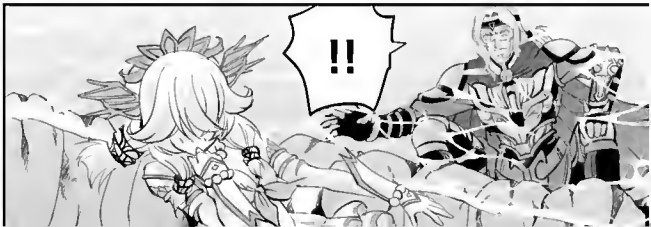
いえ それでは
後方にいる
兵士たちに
存在を
教えることに
なるです

私たちが
周囲を探って
いるのが
知れたら
このあとの
砦を奪う作戦に
影響が出て
しまうかもです
はっ!
もう
あんな近く
に……

やれやれ
平和なもんじゃ
ねえか
こんな平穏な
日が
これからも
ずっと続けば
いいのにな
!!
やっぱり
私に気づいて
ますかっ!?

…あ！
いけないっ
動揺して
屈折の魔法を
……!!
なんだ…？
人か…!?

だ…だめ…


!!

ち…違うっ
人じゃねえ
魔女
かっ!?

み…
見られたですっ!!
なっっっ…
なんじゃこりゃあっっ!?

くっ…
ビクともしねえっ
どうかしましたか中隊長っ
来るな！
魔女だっ!!
ひっ!!

なにしてる
早く逃げ…
うわああ
あああ!!
ボポ…

ちゅ…
中隊長が
魔女に…
魔女に
攫われたぁ
あああ――!!
どうすれば
いいと思い
ますですか
ケイ
ちゃん!?

いやぁぁぁ
どうすんだろ
これ…

面倒だから
殺しちゃおーか!?

ですね
川に二~三分も
浸けておけば
死にますから――

ピッ
おいおい
おい!!

冗談だよ
ノノ
真に
受けるなよ
あ…
そうですか?

そもそもなんで
捕まえてきたの!?

えっと
それは…
ふうん
こいつは隊長か
なにかなのか
そう
言われると
確かに
上等な鎧
着けてるよね
…てことは
知ってるかも
しんないな
エインの
砦のこと
あー！
ナーガさん
知りたがってた
じゃない
内部の詳しい
情報があれば
砦を
落とすのが
楽になるって
ということは
私…
いい捕虜を
捕らえたわけ
ですね…！
またもや
お手柄
でしたか!?

はいはい
お手柄お手柄！
ナーガさんに
頭を撫でられると
いいさ
もしかすると
胸も撫でられちゃう
かもだけどねっ
それは…
困ります
……
冗談だよ！
さて そろそろ
ナーガさんのとこに
連れてってくためにも
このおじさんに
起きてもらわなきゃ
固くして仮託し
堅きとして敵なし
方々へ硬型
貌と形り固きと成せ

ケイちゃんが
本気で殴ると
その人の骨が
折れてしまうので
気をつけてほしいです
それじゃあ
いくよっ…
わかってる
優しく
なでるように
叩くから
大丈夫だよ
てき起――!!
う…
うう…

気がついた
みたいですね
そうだ
俺は…
魔女に…
まっ 魔女ぉ
おおっ!?
～第18話おわり～

うわああ
あ――!!

あっ
逃げたっ

ドドドド

ピッ!!

ズズズ…

第19話 ライバッハ

こんな芸当ができるってことは…
あんたらやっぱり魔女だよな…
そうだよ
まいったな
どっちもよく見りゃただの女の子じゃねえか
生きていりゃあ
あの子もこのくらいの年格好になっていたんだよな…
……で…

これから俺はどうなるんだ!?
どうせ殺されるなら苦痛のない方法でひと思いに…
殺さないよ!

簡単に殺すんだったらわざわざ捕まえないでしょうが!

じゃあ…
どうする気だ!?

それをナーガさんに相談しようと思うから
これから連れて帰りたいんだけど!?

ナーガ!?
意味としては
龍王(ドラゴンロード)…
みたいな!?
龍王…!?
うちの一族に
いるんだよ
ナーガさんて
男の人が
男の「人」って
言っていいのか
わからないけど
このあいだ
あんたたちの
兵を撃退
したのも
ナーガさんの
策略だよ
なにっ!?
なるほど魔女が
今までと違う
戦い方をしてきた
という話も
それなら
わかる…!

そろそろ
行くよ
おとなしく
ついてきてね
痛い思い
したく
なければね

――魔女の砦――
ナーガ
さ――ん！
捕虜を連れて
来たよ――！

ケイ！
カサンドラの兵を捕まえたですって!?
うん
捕まえたのはノノエルだけど
ほらこの人
あ
ここにユウキはいないよね!?
それなら心配無用よ中に入ってナーガさんが待っています
あのお姉さんはさ見た目と違って
本当はもの凄く怖いから怒らせないようにね

あんたなら
ビンター一発で
首から上が
ふっとぶよ
これは酒落や
脅しじゃなくて
本当の忠告
……
おまえさん
親切だな
ん!?
まあ
親切に
されたって
自覚が
あるなら
その分
返してね
そうかな
……!?
こいつらが
魔女だって
信じられなく
なってきた
娘が生きてたら
……
こんなふうに父娘の
会話ができたかも
しれないなぁ

聞いたぜ！
そいつが捕虜か!?
ア
ア
ア

こいつが龍王!?
またずいぶんと若いな
魔女の砦に連れてこられたのに
その落ちつきぶり
やはりただの雑兵じゃないな

ライバッハだ
ライバッハ・ランティエス
そうか
俺はナーガだ

名はなんと言う!?

さて…早速だが
あんたには
訊きたい
ことがある
フ……
たいしたことは
知っちゃ
いないがな
俺は
まどろっこしいのは
嫌いだ
エインの砦は
知ってるな？

……
そりゃあ
知ってるが

どうして
そんなことを
訊く？

どうだろう!?
縄張りとか
教えてもらえないか!?

あの砦を
陥とそうと思ってる
なっっ!?

ま…魔女の数は
二十かそこらと
聞いているが
エインの砦には
今 三百ほどが
詰めているんだ
どうやって
陥とす気
なんだ!?
詳しくは
言えないが
人を身動き
できなくする
そんな魔法が
あったら!?

な…
なにを
言って…
第一 俺が
砦の内情を
話すと思って
いるのか!?

え…
話さないのか?
馬鹿にするな!
俺自身は
家族もない
天涯孤独の
身だが
砦には一緒に
戦ってきた
仲間がいる!

ナーガ…
こいつ
なかなかの男だ
信頼するに足る奴だ
ライバッハ
仲間については
そんなに心配
しなくていいぞ

俺たちは
人の兵の
犠牲を出さずに
砦を陥とそうと
思っているんだ

なっ…
適当なこと言ってるんじゃないぞ！
そんな出鱈目を信じるとでも!?
そっちこそ
アイス大丈夫だ
俺が出鱈目を
言っていると思うか…!?

な…
なんだ
こいつ？
この異様な
迫力は…
俺は本来
魔女にも
人間にも犠牲者を
出したくないんだよ
魔女の国を
創るためには
どちらも必要
だからな
ま…
魔女の
国いっ
……!?
そんなもん
創って
どうすんだ！
まさか魔女が
人を支配するとでも
言う気か!?
そういうんじゃ
ねえな

俺が目指すのは
魔女と人間の
共存
魔女が
正しい政をして
人間と一緒に
豊かで平穏に
暮らせる国だ
な…なんてことを
考えてやがる
これが
この男の
龍王様たる
所以(ゆえん)が…
違う…
中隊規模でしか
物事を考えられない
俺とは
視(み)ている世界が
違いすぎるっ……!

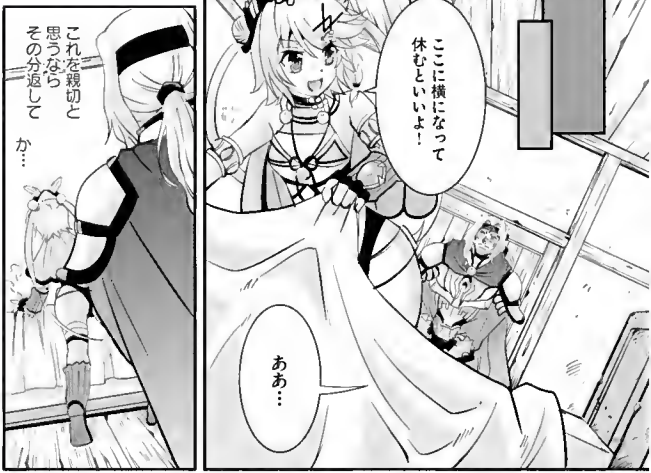
こんな男が治める国にいたなら…
リィサもエリナも
おかえりパパ――！
平穏に暮らせたのか…

エリナ……！
エリナ……

どうしたの……!?
少し時間をとろう
疲れてるだろうしな

ケイ
休める部屋へ案内してやれ
オッケー!

こっち来てライバッハ
なんだケイはもう呼び捨てかよ
あいつは本当に誰とでも親しげに接するな
でもそれがケイのいいところですから

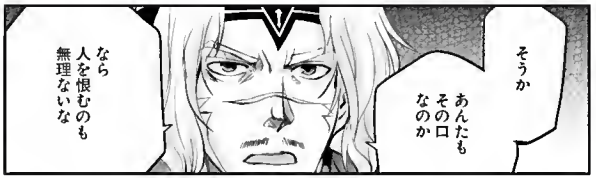

ここに横になって休むといいよ！
ああ…
これを親切と思うならその分返してか…

ぴとっ
ん!?
待ちなさい!!
邪魔しないでアイス!!
まずいライバッハ隠れて！
なっ
なんだ!?

カサンドラの兵士はどこ!?
見つけたっ
ケイどいて!
今すぐ殺してあげるから!!
なに言ってんだよユウキ!
この人からはまだ情報を尋き出してないんだよ!!
だったら私が尋き出してあげるわ
指を一本ずつ切り落としていけばすぐに吐くわよ

そんな勝手なことさせるもんか！
あんた人の味方をする気!?
味方じゃない！
魔女の評判を落としたくないだけだ！
綺麗事言ってんじゃないわよ！
そいつらはねえっ…
私の仇なのよ!!
……
なぁ
あんた

なっ
なによ！
命乞いなら
聞かないからね！
…あんた
家族を
俺たちに…
王国兵に
殺された
のか!?
王国兵
じゃ
ないわ
……
でも
人に殺され
たのよ！
寄って集って
嬲り殺しに
されたのっ!!


そうか
あんたも
その口
なのか
なら
人を恨むのも
無理ないな

おい
ライバッハ！
どうして
そんなこと
言うんだよ！

あんたが
どうしても俺を
殺したいのなら
そうして
いいぞ

退きなさい
ケイ
もうそいつを
庇う必要は
なくなったのよ

ユウキ
なっ なによ
急に
あんた…

なあっ!?
頼むユウキ！
そいつは魔女の未来のために必要な男なんだ
だからここは堪えてくれないか……

俺はおまえの事情をよく知らないから
おまえの気持ちはわからないが
とりあえずこの場は俺を信じてくれないか……！

あ…
あんたみたいな奴……

信じられるわけないでしょっ！
ユウキ…
待て
エリナ……
ダダ
ダダ
エリナ!?
ああ…すまん
頭ではわかっていても咄嗟に出てしまうものだな
エリナは……
俺の娘の名でな
あの娘によく似ていたんだ

ユウキに!?
俺が戦に出ているあいだに
住んでいた街を蛮族が襲って
戻ったときは家はおろか妻も娘の姿もなくなっていた…
俺は…あの娘になら殺されてもいいと思ったんだ
だって俺の妻も娘も俺のことを恨んでるだろうからな
ふたりともどんなに怖かったか
どんなに苦しかったか
どんなに俺を待っていたか……
なあ龍王(ナーガ)さんよ…!
人と魔女とが一緒に暮らせる世界ができれば
人と人も争わなくてすむのか…!?

ああ

もちろん…と言いたいところだが
安請け合いはしない
だが努力はするやれることはすべてやる

あんたなら…エリナのような犠牲者も出さずに
そんな世界が創れるのか…!?

この男
まさに本気だからこそ
安請け合いはしない

……わかった
エインの砦について
俺の知るすべてをあんたに話そう
～第19話おわり～

魔女の砦――
ライバッハは
砦の縄張りや
兵の配置を
かなり
詳しく話して
くれた

ありがとうよ
ライバッハ
これで策に
万全を期す
ことができる
いいかみんな
今回の戦の眼目は
エインの砦を
奪取するのと
同時に――

悪逆非道な
「魔女」という
世間の評価を
覆すことにある
そのためには
ひとりの兵も
殺しては
ならない

――では
戦闘開始だ!!

最終話 未来への思い

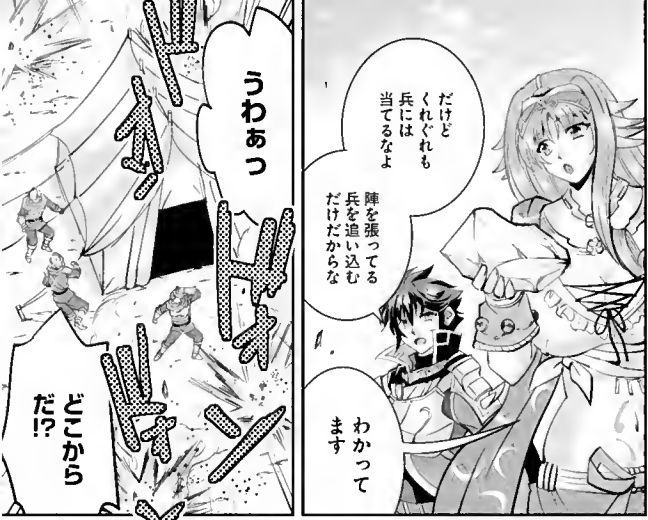
本当にいいのかライバッハ
前線に出るのは危険を伴うぞ
承知の上だ
それでも俺の部下の無事をこの目で確かめたい

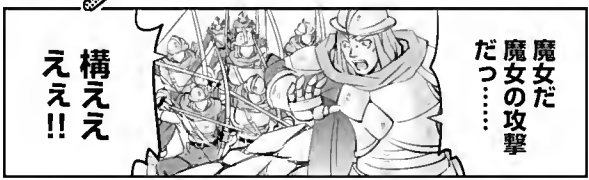
それが
この男の
責任の
取り方という
わけか…
わかった
アイス
準備は
いいか!?
いつでも
いいですよ
ナーガさん
よしやれ
アイス!!

ドオン

敵襲か!?
なっ
なんだ!?

ナーガさん
見張りの兵が
驚いている
ようです
いいぞ
アイス
今の感じだ


だけど
くれぐれも
兵には
当てるなよ
陣を張ってる
兵を追い込む
だけだからな
わかって
ます
うわあっ
ヒュン
ヒュン
どこから
だ!?


魔女だ
魔女の攻撃
だっ……
構えええええ!!

なあに
ここまでは
届かないさ
ヒュン
ヒュン

敵兵
弓を射って
きます!

こんな
とんでもない
距離を投擲が
届くなんてのは
世界のどこ
探したって
アイスくらいしか
いないもんな！
あら
ナーガさん
それではまるで
私が怪物みたいに
聞こえませんこと!?

いや
そんなつもりは
……
！
ってえ!!

あら失礼
しました
手が
すべりましたわ
あらら
切れ者だが
若いだけに
女心については
今ひとつ
わかってないな

むっ
あの娘か……！
ヒソヒソ
ウーン
一時はどうなるかと思ったけど
ユウキが協力してくれる気になってよかったね
どうか無事で――
もうっ
ヴィータさんに頼まれたら
断れるわけないじゃない……！
それに

…私が動けば
私みたいに辛い思いをする魔女がいなくなるっていうの!?
ああそれに…
ライバッハも今のおまえと同じことを言ってたぜ
人と魔女とが一緒に暮らせる未来が来れば
俺の娘のように幼くして命を落とす子もいなくなるのか…!
――ってな
あ…あいつの娘のことは
私には関係な…

ライバッハの娘は
生きていれば
おまえと
同じくらいの年
だったそうだよ
しかもおまえに
よく似ていた
とか
そんなんじゃ
ないんだから
私は私のために
飛ぶんだからねっ！
ヒュ
そろそろ
はじめま
す
ああ
そうだな

火の玉だと!!
川だ
川のほうへ逃れるんだ!!
GRRRRRR!!

ア
ハ
ハ
ハ
うわああああ――!!
川へは近寄らせませんです……!
ダ…ダメだ
砦へ戻るしかない!!

兵たちが皆へ
逃げ戻って
いきます
想定どおりだ
アイス もう
いいぞ
了解っ!!
ピキ
よしみんな
川を渡ろう
ケイは先に
行ってくれ
ノノエル
ご苦労
さま――!

敵の攻撃があるかと思ったけど
もうすべての兵が砦の中へ逃げたみたいだな
せっかく体を硬化させたのに
なんだか肩すかしだなあ
さてこのあたりでいいかな

ぬ
うっ
うへぇ！
本当に湧いて出てくるように出現するんだ！
気味の悪い魔法だなぁ……
うっ…
まだまだ

ズ
ズ
ズ。

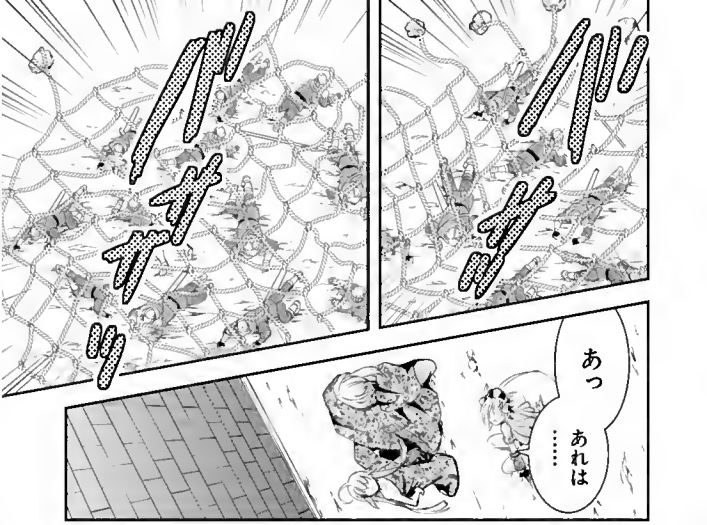
ガバッ
くっ
重(おも)っっ!!
予(あらかじ)め構えて
おいても…
このざま
か…
本気で
やらねば
皆の中の兵に
効かぬかも
しれぬからのう
ヒソヒソ

なんだか
鳥もちにかかった
鳥みたいね
じゃあ
これを…
くら
え――!!

なっ…
あ…
網(あみ)だと!?

ドサッ

く…くそっ
この網体にまとわり…ついてくる…
その網にはハリ姉の髪が仕込んであるから
一度かかったら人間にはずせないわよ


ガサガサ
ガサガサ
あっ
あれは……

ヴィータさん！
終わったみたい…
ニヤリ

あっ
体が軽いっ!!
ではエリューよいか!?
はい母様
足を乗せよ
行け!!

うわ
凄っ！

ぬしも
飛ぶかえ!?
いいんですか!?
お疲れなんじゃ!?
この程度なら
魔力を消費
すらせん
体を硬化
させたまま
でも!?
かまわんよ
じゃあ
…
それっ

ケイ
行き
まぁ――す!!
ん!?
あれは
…

――旗だ！
魔女の国の旗が見える……！
川からここまでは魔女の支配地になったってこと…
やったね！

エリュー！
一緒にナーガさんたち迎え入れよう
キィ…

ぱぁん
お待たせ――！

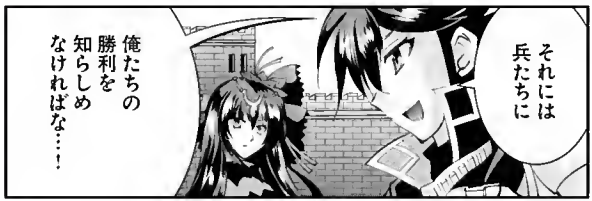
ご苦労さまねケイ

アイスもご苦労さまだね――！

どうやら
まんまと砦を落とせたようだ
これほど簡単に砦を落とせるとは思ってませんでした
さすがはナーガさん
見事ってほどの策じゃないさ
今回はこちらに流れが来ていたからな

今日からここは
吾らのものだ
この目で
中を見て歩くと
せんか!?
…いや
その前に
捕縛した兵の
武装解除を
するのが先だな

武装を捨てた
兵から
「逃げていい」
と言えば
魔女の力を
知った兵は
自分の足で
走って逃げる
だろう

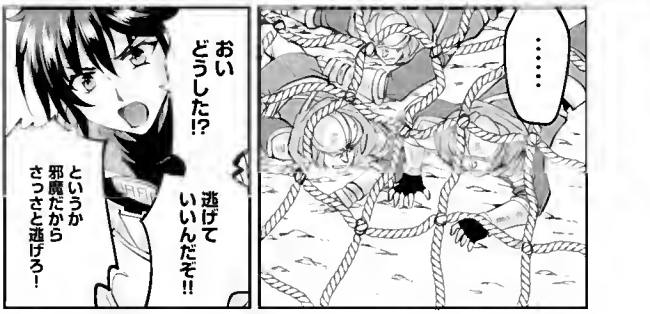

それには
兵たちに
俺たちの
勝利を
知らしめ
なければな…!

魔女が
続々と…
魔女だ
……

お…おいっ
見ろ!!

カサンドラ
王国兵に
告ぐ!!
この砦は
魔女のものと
なった!!

だが
安心しろ
魔女は
おまえたちを
殺しはしない！
これから網を
ゆるめる
武装を解除した
者から解放する!!
スッ


……
おい
どうした!?
逃げて
いいんだぞ!!
というか
邪魔だから
さっさと逃げろ！

ど…
どうして
魔女の中に
男がいる…!?
あいつは
何者だ…!?
きさまらが
捕まったのは
魔女の土地を
奪うために魔女を
攻撃するという
愚かな行為故で
いわば自業自得な
わけだが――
慈悲深い
魔女によって
おまえたちは
救われた!!
そのことを
心に刻み込んで
おけ!!
そして
これに
懲りたら
魔女と戦う
などと
愚かなことは
考えないことだ!!

この男が
来てから
若らは
変わった
カルラ
ガシャン

滅びるのを
待つだけだった
魔女が
互いに
手を取り
未来を
見据える
ようになり
そして
今日という
日は
ズキン

これからの
魔女にとって
歴史的な日と
なるだろう

ここを
去る前に
ひとつ訊き
たいんだが…
なんだ!?
あ…あんた
……
魔女の中に
ひとりだけ
交じっている
あんたは
何者
なんだ!?

俺は俺が
何者かは
知らないが
とりあえず
ここの魔女
たちからは
こう呼ばれて
いる

THE END

落ちてきた龍王と滅びゆく魔女の国 4

2015年3月31日発行 ver.1.0

著　者　村松麻由
原　作　舞阪洸
発行者　三坂泰二
編集長　池上昌平
発行所　株式会社KADOKAWA
〒102-8177
東京都千代田区富士見2-13-3
03-3238-8745（営業）
編集　メディアファクトリー
0570-002-001（カスタマーサポートセンター）
年末年始を除く平日10：00～18：00まで

© Mayu Muramatsu 2015　Kou Maisaka 2015
http://www.kadokawa.co.jp/

※無断で複製・複写・データ配信などをすることは、かたくお断りいたします。

本電子書籍は下記にもとづいて制作しました
MFコミックス　フラッパーシリーズ
落ちてきた龍王と滅びゆく魔女の国 4
発行日　2015年3月31日　初版第一刷発行